

コロナ禍で明白となった我が国に必要な医療改革

日本病院会会長 相澤孝夫

- * 医療現場における混乱の原因
- * 一般病院は感染症に即応できない
- * 未整備だった病院間の連携
- * 役割分担を可能にした長野県と松本モデル
- * 東京が治療需要を満たせない現実
- * 日本は病床世界一ではない
- * まったく手薄な後期高齢者医療
- * 私の医療提供体制改革案について
- * 「医師不足」の実態と対策をどう考えるか
- * 医療改革に政治の力は不可欠



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
本日は日本病院会会長の相澤先生においていただきました。相澤先生は1947年のお生まれで、慈恵医大をご卒業後、信州大学の医局に勤務され、その後、ご父君の経営しておりました病院に呼び戻されて今に至っているわけでございます。

日本の医療はコロナ前からいろいろ問題がありました。コロナで非常に大きな問題があらされたという感じがいたします。私どもこの2年数か月、そういった問題をつっ込んで取り上げたいと考えてまいりまして、感染症の専門家とか、いろいろな方をお呼びしたわけでございますが、医療体制についてはなかなか現実がわかってお話をしていただけの方が見つかり

ませんでした。今日はまさしく現場を熟知され、医療体制のあり方についてもいろいろお考えになつておられる相澤先生においていただきましたので、皆さんにもたいへんいいお話をご提供できると思います。

それでは先生、よろしく願いいたします。

医療現場における混乱の原因

相澤 皆さんこんにちは。（拍手）日はこの経済倶楽部で講演をするということ、たいへんうれしく、ありがたく思っております。

医療のことは複雑怪奇で、医療者の中ではわかっているんですが、なかなかそれ以外の方にわかっていただけないということがたぶん日本の医療の大きな問題点の一つではないかと思っ